

事業実績（研修）報告③

1. 研修の概要

- (1) 目的 子ども、子育ての支援について
- (2) 日時 12月11日（土） 13時30分～15時30分
- (3) 場所 東京都渋谷区 市川記念会婦選会館（自宅にてZoom受講）
- (4) 参加者 鈴木規子

2. 研修内容と所感

市川房枝記念会 2021 連続講座

<子ども・子育て支援の課題～海外の動向を踏まえて>

講師 池本 美香 氏（日本総合研究所 調査部 首席主任研究員）

【専門：子ども・女性に関する政策（保育・教育政策、社会保障など）】

- ・待機児童問題を背景に、保育所が急増するなか、保育の質の低下が懸念されている。わが国では、児童数に比例した有資格者の配置と保育環境など自治体の実地検査で質の担保をめざしているが、保育士の不足が言われて久しい。都市部など保育所が急増する地域では実地検査の実施率が低下している。
- ・イギリス等海外では、定期的に全国の保育施設を評価し、評価結果を公表する保育評価機関を設置する動きがある。その評価にあたって子どもや親が参画している。女性や子どもの人権に関する国際的な議論を受けて見直されている点に注目すべき。
- ・日本においても、こうした機関の設置と評価の定期的な審査を受けるよう義務付けるべきではないか。保育評価に保護者の参画を促すのは当然の流れである。
- ・幼児保育・保育政策を救済的な福祉制度体系から人的投資を意識した教育制度体系に位置付ける国が増えている。「子ども・子育て新システム」については、人道的観点に加えて、女性の労働力の活用の観点から経済成長戦略に含むべきである。

<所感>

- ・子育て支援で「保育の無償化」が実施されたが、財源を保障せず、自治体負担とされたが、質的向上は自治体に求めるべき責任ではないはずだ。子ども庁の判断やいかに。
- ・保育園の民営化が進む。国の支援の削減による方向性は明らかであり、わが国では、質の担保や向上につながっているのか疑問を感じる。保育施設の審査はあるものの定期的ではなく抽出に過ぎない。審査ポイントをチェックする必要を感じた。

項目	支出金額	備考
研修費	1,100 円	受講料として
計	1,100 円	